

Nさま,

すぐにもお手紙を書こうと思いながら大変に遅くなってしまったことをお詫びいたします。お父さまのご不幸には、いまもってなんとも悔やみきれない残念な思いしております。体調がすぐれないことはうかがっておりましたが、「心配しないでください」という言葉を真に受けて、いつかそのうちに会えるであろうと考え、また私も俗事に追われ日常生活に埋没して日々を過ごしてしまい、いまや望みが叶わなくなってしまったことを後悔いたすのみです。せめて私が日高市にある埼玉医科大学におりました間に無理にでもお訪ねしておくべきでした。喜義さんは研究室におりました間、また会社に入ってからあれほどに尽くしてくれたのに、事情あって必ずしも恵まれた立場になかったことはかえすがえすも残念です。しかし、お孫さんを含めてのご家族との生活はきっと楽しいものであったかと思えます。先日も事務所を整理していましたら、同封の書状が出てまいり思わずこみあげる思いがありました。

ご家族の皆様にはどうぞこれからもお健やかに過ごしてください。喜義さんを偲ばせていただき、まことに失礼ながらお花を供えていただきたく存じます。

敬 具